

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		3	3	同一般地内において他サービスも運営している環境であるため、時間をずらして可能な限り児童が活用できるように工夫しています。
	2	職員の配置数は適切であるか		1	5	児童の特性を鑑みて、現在保育士等を増員する計画を立てて、現在、公募中です。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	3	3		ハード面においては設計の段階で、高齢者・障がい者仕様となっております。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		5	1	このような自己評価を活用して課題抽出→目標設定→実行→評価→見直しを毎年繰り返すことで、質の向上につなげていくことを業務化していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	3	3		今回のような保護者向けの評価表が最も有効ではないかと考えています。今後は、評価表を受け取る際に無記名で郵送できるような措置を取ることで、より一層意見を出しやすい環境を整えます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	1	5		ホームページに公表していることや、事業所にも閲覧できるようにしていることを、職員に周知していくことが課題と捉えることができました。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	2	3	第三者評価の調査を実際に行っている職員が法人にいないため、その者に第三者評価基準を基にした評価を行うことを、法人として中長期的に検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	4		法人として年間研修計画を立案して実行していますが、今後、発達障がいや児童福祉分野の研修もボリュームを増していく方針です。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	1	5		主に児童発達支援管理責任者を中心に計画書関連の立案等を行っていますが、より一層チームで作る計画書に近づけていくために、担当制を用いる等段階的に実施していく方針です。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	5		児童発達支援管理責任者が所定のフォームを用いて、定期的にあセスメントしていく方針で進めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	1	5		午前中に放課後デイ専任の職員で児童の様子を情報交換しながら、児童の活動プログラムを作成しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	2	4		物的環境面から一定程度固定的にはなりがちですが、可能な限りバリエーションを増やしながら飽きがないように、また、児童の個別的支援を視野に組み立てているところです。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	1	4	1	滞在時間が長い時は、メリハリをつけて室内と屋外活動を交えていくようにしています。外部に目を向けることで社会性の確保にもつながりますので、持続的に取り組んでいく方針です。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	2	3	1	集団プログラムはほとんどの児童が参加します。一方、個別的支援については、まだ取組みにまでには至っていない児童もいますので、これからの課題の1つだと認識しています。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	3	3		午前中や児童が到着前に1日のプログラムを確認して、前回の利用の様子や役割分担、注意事項等確認する習慣が定着してきました。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	1	夕方の送迎後に児童の様子と情報交換、保護者からの情報等総合的に共有する場を設けています。送迎の遅延等でどうしてもできない場合は、翌日に情報共有するようにルール化しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	2	4	記録は主観を除いて客観的事実を記すようにルールを設けています。今後、皆で記録の確認を行い、いつ・どこで・誰が・何を等簡潔さを追求していく方針です。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4	2	モニタリングは毎月実施していますが、特に状況が大きく変化した際は、計画の見直しを事業所内カンファレンスで協議するようにしています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	2	4	開設当初に読み合わせをしましたが、職員の入れ替わり等もあり、今後は年度初め等、定期的に見直す機会を設けていきます。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	2	4	基本的に管理者や児童発達支援管理責任者が参加するようにしています。但し、ケースバイケースで、保育士や児童指導員が同席することもあります。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	2	4	児童の就学に関する情報は、児童本人からでもですが、保護者からも情報収集するようにして、送迎時間の間違い等がないように日々の業務遂行シートに記すようにしています。しかし、時折情報の行き違いがあるため、精度を上げる必要があります。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	今のところ対象者はいません。			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		6	一部の児童においては、保護者伝手で他関係機関からの情報提供はありますが、こちらから積極的に共有をできていないので、今後はチームとの連携にも着目していきます。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	今のところ対象者はいません。			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		5	1	事業創設時にお世話になりましたが、このところ関わりがありません。定期的に助言等をいただければ、客観的な視点でサービスを見直すことができると考えます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		4	2	今のところ関わりはありませんが、地域の児童等との関わりを模索していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		4	2	定期的開催されているので、今年から管理者か児童発達支援管理責任者が参加するようにしていく方針です。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	1	5		一番身近な手段として送迎時に1日の様子や、成長的側面や課題等を共有しています。もう少し形式的な話し合いの場を設けることが重要であると考えております。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	3	2	まだこの領域にまでは至っていないため、課題の1つと捉えています。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	1	5		利用契約時や料金変更の際等、紙面を用いて、主に保護者へ説明を行い、と同意を得ています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	1	5		普段の会話の中から、保護者からの気になる発言等あった場合は、職員間で情報を共有して、内容によっては記録にも残しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	4	1	最低でも年に1度は児童と保護者が参加できるイベントを開催して、会の後半は保護者だけの意見交換会を実施しています。
非常時等の対応	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	1	5		苦情発生時の対応方法は、契約時に説明したり、事業所に掲示しています。また、発生した場合は、手順通りに対応しています。迅速かつ丁寧さがポイントと考えています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	1	4	1	行事予定や連絡事項は、都度必要に応じて配布しています。事業所の定期的な広報誌については、今のところ発行していません。
	35	個人情報に十分注意しているか	2	3	1	十分に気を付けてはいるものの、まだまだ認識に欠ける部分も確認できましたので、今後の重点課題の1つと認識して、事業所で取り組んでいきます。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	1	5		会話だけではなく紙面を用いたり、保護者や学校等と連携を図り、統一したやり方を実施する等、できる限りの手段は講じています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	2	3	同一敷地内で高齢者事業を営んでいるため、場合によっては共同でイベント等を開催しています。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	2	4		緊急時対応や感染症に関するマニュアルは整備できていますが、不審者対策までには至っていません。また、各種マニュアルは定期的な読み合わせができていないため、今後は活きたマニュアル作りが課題となります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	2	4		年に2回火災発生時の訓練を行っています。今後は、自然災害時の対応方法を検討する必要性を感じました。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	2	3	1	グループ会社内で身体拘束や虐待廃止の研修は行っているものの、児童に特化した内容ではないため、今後、理解を深化させることの必要性を感じました。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		4	2	今のところ、緊急やむを得ない事情による身体拘束等の事案は発生していませんが、今後、全くないとは言えません。組織的な取組みや同意の取り方等を事業所で検討していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	2		利用時に保護者から情報を得ていますが、医師の指示書に基づくものかまでは確認できていません。今後はもう一步踏み込んで確認をするようにしていきます。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	2		アクシデントレポートはその都度確認できていますが、ヒヤリハットについてはまだこれから、気付きの目を増やしていかなければなりません。今後の課題の1つと捉えています。	